

## 第3回 内航海運活性化・グリーン化に関する懇談会 議事概要

### 1. 日 時

7月8日(水) 14:00~16:00

### 2. 場 所

三田共用会議所3階 第三特別会議室

### 3. 出席者

委員：杉山座長、石渡委員（代理：石丸常務理事）、上野委員（代理：野口審議役）、江口委員、岡口委員（代理：美濃みなと振興部長）、興村委員（代理：福吉課長）、中泉委員、藤澤委員（代理：大内副組合長）、北條委員、村木委員  
(オブザーバー) 日本経済団体連合会 根本産業政策本部長

(国土交通省) 伊藤海事局長、大野次長、又野審議官、染矢技術審議官、赤星参事官、蒲生総務課長、山本企画室長、小久保課長補佐、堀内財務企画室長、坂下安全・環境政策課長、稜川海事人材政策課長、蝦名内航課長、中野専門官、西村運航労務課長、今出船舶産業課長、秋田安全基準課長、港湾局 下司企画室長  
総合政策局 大塚環境政策課長  
政策統括官 山口参事官（代理：前田企画官）

### 4. 議 題

1. 内航海運活性化・グリーン化について
2. その他

### 5. 議事概要

○事務局から、委員交代の紹介及び中間とりまとめ(案)の説明があった後、議事に入った。

○主な意見は次のとおり。

- ・今後の取り組みについては、発想を転換し、イノベーションを起こすことが必要である。IT・通信等の技術や制度の蓄積を連動させ、労働人口の本格的減少時代の就労イメージや30年後の国土像まで念頭に置いた長期的なスパンで進めることが重要だ。
- ・高速道路料金の引下げ等の政策的な変更にあたっては、輸送機関の競争条件に与える影響を十分考慮するとともに、大きな影響を受けるフェリー、旅客船業に対して支援措置を講じることが必要だ。
- ・ヒューマンエラーの背景には、コスト削減、定員削減の結果、過重労働となっているという状況がある。事故を防止するには、まず労働環境の改善を行うべきだ。
- ・日本は世界第6位の排他的経済水域を有しており、そこには産業資源がねむっている。これは将来内航船が輸送を担う宝の山であり、自立と創意工夫で内航フロンティアに挑戦していけば、内

航は将来性のある産業であるということを強調すべきだ。

- ・標準化に特化する、あるいは部分のモジュール化を図ることも大事だが、最終的には全体の最適システムを作り上げることが大事である。そのためには、研究開発機関との連携を進めていくべきだ。地方、港湾との連携については、内航フィーダー輸送も記述すべきだ。
- ・物流全体の問題を常に念頭におきながら考えるべきだ。

○本日の意見を踏まえた中間とりまとめ（案）の文言の修正については、座長一任となった。

（以上）